

第7回 紀の川流域委員会 H14.32
---------------------------

資料 - 3
--------

## 紀伊丹生川流域の生物調査について

第6回紀の川流域委員会において配布した参考資料-2(2)紀伊丹生川流域生物調査成果一覧について、的場委員より質問を頂きましたので、回答をさせていただきます。

#### 質問要旨

以前、紀伊丹生川ダム調査事務所より、「キバネツノトンボ」が発見されたと説明を受け、和歌山県レッドデータブックに絶滅危惧類としたが、参考資料-2(2)に記載されていない。確認を願いたい。

#### 回答

下記の事実経過のとおり、再同定の結果、ツノトンボと同定したため、参考資料-2(2)のリストにキバネツノトンボは記載されていません。

再同定の結果を報告していないため、的場委員にご迷惑をおかけする結果となりました。謹んでお詫び致します。

#### 事実経過

平成10年7月13日～18日

紀伊丹生川ダム調査事務所が実施した昆虫類調査(ライトトラップ調査)により採取。キバネツノトンボと同定。

平成11年3月3日

的場学芸員に、平成10年度昆虫類調査結果について意見をお聞きした。

キバネツノトンボ他、和歌山県下において報告事例の無い種、地域的に珍しい種についての指摘を受ける。

平成11年3月

指摘を受けた種について、採取標本の再同定を実施。キバネツノトンボについては、再同定の結果、ツノトンボであったことが判明。調査結果を修正。的場学芸員には、再同定の結果を未報告。

# 紀伊丹生川流域の生物調査について



平成10年環境調査において採集した標本写真(ツトトンボ)

## ツトトンボに関する経緯

H10.7.13～7.18

調査においてライトトラップ調査で採集。キバネツトトンボと同定。

H11.3.3

和歌山県立自然博物館的場学芸員にH10昆虫類調査結果について意見をいただく。キバネツトトンボは和歌山県内では非常に珍しいと意見をいただく。

H11.3下旬

同標本について再同定。ツトトンボと同定される。H10調査確認リストからキバネツトトンボを削除。同定結果について、的場学芸員には未報告となっている。

## アミメカゲロウ目ツトトンボ科キバネツトトンボ *Ascalaphus ramburi*

体長23mm、前翅長28mm。成虫は4～6月草原に出現し、よく飛ぶ。幼虫は草の根ぎわや石下で昆虫を捕食。 分布:本州(岩手・山形・新潟・東京・京都・兵庫)・九州。

## アミメカゲロウ目ツトトンボ科ツトトンボ *Hybris subjacens*

体長30mm、前翅長36mm。成虫は7～9月、ススキの生えた小草地にふつうにみられ、よくトンボ目とまちがわれる。♂は臭いにおいを出し、捕えると食いつく。幼虫はアリジゴクに似て草の根ぎわにすみ、小昆虫を捕食する。

(原色日本昆虫図鑑(下)より引用)